

F P 実践力向上 (42)

新紀元社
CFP 伊藤 亮太

運用利回り計算法

Q：運用利回りの計算方法を教えてください。

回答

本稿では主要な運用利回り計算方法についてお話しします。

まず、年平均利回りについて。年平均利回りとは、ある一定期間で得られる収益を1年あたりではどのぐらいの収益になるかを計算し、元本で割ったものです。

特に預貯金において、1年間ではどのぐらいのリターンを得られることができたかを計算できるものといえます。収益部分には実際に受け取った利息を算入することで計算します。

次に、債券の利回り計算を見てみましょう。我が国においては、債券の利回り計算では単利利回りで計算を行うのが一般的です。単利利回りには、直接利回り、応募者利回り、最終利回り、所有期間利回りの4種類があるといえます。直接利回りは、投資元本に対して、毎年いくらの利息収入があるのかをみる利回りであり、それ以外の利回りは購入価格や所有期間等により使い分けます（実際には3つの利回りは一つの計算式を利用することでいずれも計算可能です）。

もう一つ、株式など有価証券をメインにしてポートフォリオを構築した場合の、リターンを求め

る方法をご紹介します。一つの方法として、時間加重収益率というものがあります。時間加重収益率は、運用1年ごとに収益率を計算し、その幾何平均を求めることで計算できます。運用途中のキャッシュフローの影響を受けないため、ファンドマネージャーの評価を行うのに適した収益率ともいえます。

この他に、キャッシュフローの出入りを考慮した金額加重収益率などがあります。

こうした利回り計算を行うことで、実際にどの程度の利回りになったかを知るだけでなく、同じ利回り計算を行うことで、顧客のリスク許容度も考慮に入れながら今後どの金融商品で運用していくことが好ましいかを検討する材料にもなるといえます。

＜運用利回り計算式＞(単位：%)

$$\square \text{年平均利回り} = \text{収益合計} / \text{元本} \div \text{預入期間} \times 100$$

$$\square \text{直接利回り} = \text{表面利率} / \text{買付価格} \times 100$$

$$\square \text{債券の他の単利利回り (応募者利回り、最終利回り、所有期間利回り)}$$

$$= \text{表面利率} + \frac{\text{額面 or 売却価格} - \text{買付価格 or 発行価格}}{\text{保有期間}} \times 100$$
$$= \frac{\text{表面利率} + \frac{\text{額面 or 売却価格} - \text{買付価格 or 発行価格}}{\text{保有期間}}}{\text{買付価格 or 発行価格}} \times 100$$

$$\square \text{時間加重収益率 (\%)} \text{ (例: 2年間運用した場合)}$$

$$= \sqrt{\frac{1 \text{年目期末価格}}{1 \text{年目期初価格}}} \times \sqrt{\frac{2 \text{年目期末価格}}{2 \text{年目期初価格}}} - 1$$